

森林やまがた

No.142

2012.11

フォレスト
サポーターズ

美しい森林づくり推進国民運動
山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



オープニングセレモニー 丸太カット



高性能林業機械の実演



さのこの植樹体験



参加者で終日賑わった青空木工教室

目 次

第22回山形県林業まつり	2
やまがた美しい森林づくり推進大会開催	3
保安林・林地開発許可制度について	4
荒廃森林緊急整備事業の認知率向上に向けた取組み	5
森林環境学習の推進について	6
県内各地に広がる「絆の森づくりプロジェクト」	
リポート2	7
みどりのページ	
ジャガラモガラの自然観察会と	
NDソフトスタジアムでの緑の募金活動	8
サクラを守るために研修会	9
県内の高校生を対象に森のめぐみセミナー開催	10
普及情報	
森林・林業再生に向けた准フォレスター育成研修	11
森の人紹介	
岡崎正さん・佐藤泉三さん	12
ニッセイ山形の森育樹活動	13
全国の森の芸術家が競演！	
第7回東日本チェンソーアート競技大会	14
樽口なだれ防止林造成工事～完成間近～	15
やまがた絆の森（イオンの森）の開所式が開催	15
大道（関川）地すべり防止工事完成	16
山形県の古木・名木、公共木造施設	17
丸太価格・製材品価格の推移	18

(表紙写真は、平成24年10月13・14日に開催された「第22回山形県林業まつり」の開催状況)

第22回 山形県林業まつり「緑と水と木の祭典」開催

今年も大盛況でした!



県民の皆様に森林の働きや木材の良さ、森の恵みのすばらしさを実感し、体験していただくため、「緑と水と木の祭典」(第二十二回山形県林業まつり)が十月十三・十四日の二日間、天童市の山形県総合運動公園駐車場内特設会場において開催されました。

また、今回も「第六十二回農林水産祭」として「林業まつり」と「秋の食彩まつり」が同時に開催され、各展示ブースでは県産木製品や県産きのこの展示販売をはじめ大

人から子供まで参加できる楽しいイベントが行われ、あちらこちらで長蛇の列ができました。今年は、初日は曇り空でありましたが、二日目はすばらしい秋晴れに恵まれ、昨年よりも多い三万七千五百人のお客さんが訪れ、大盛況となりました。

十三日正午からは、「農林水産祭」同オーピングセレモニーとして、高橋副知事による開会宣言、主催者による丸太カットが行われ、その後、民俗文化サークルの四方山会による「花笠踊り」が会場を賑わし、盛大に開会しました。尾花沢に伝わる各流派の踊りを取り混ぜた躍動感あふれる、華麗な踊りに、来場者

祝
餅
ま
き
い
N P
O や
がたの
木・住

され、各展示ブースでは県産木製品や県産きのこの展示販売をはじめ大

人から子供まで参加できる楽しいイベントが行われ、あちらこちらで長蛇の列ができました。

恒例の丸太切り競争では、お子さんから大人まで慣れないノコギリと格闘し、

幼児積木競争や青空木工教室でも楽しそうに木に触れ合う光景が見られ、多くの方々に木の持つ温もりを感じてもらうことができました。

また、今年も「県産木材コーナー」を設け、やまがた県産木材利用センターが扱う「やまがたの木」認証材や「やまがた県産材合板」、「やまがた県産材集成材」を展示し、県産材認証材の良さを見て触れて体感していただきました。

その他にも、やまがた緑環境税パネル展示や平成二十六年秋に全国初の二巡目となる本県開催が決定した「第三十八回全国育樹祭」のPR、旬のきのこや栗などを材料にしたおいしい山形の食材販売、木の葉や木の実で作る木工クラフトやきのこ植菌体験など、木のすばらしさ、森の



〔県森林課〕



(第59回山形県林材業年次大会)

やまがた美しい森林づくり推進大会開催

◆大 会
やまがた美しい森林づくり推進大会開催について
申立ての件について
提案・要望事項について
大会は、佐藤大会副会長の開会の
言葉で始まり、今井大会会長の主催
者挨拶に続き、各林業団体から寄せ
られた多くの要望・提案事項の主旨
説明、大会決議の提案と進められて
いきました。

去る十月十三日、山形県総合運動公園において「やまがた美しい森林づくり推進大会」が、約三百名の参加を得て開催されました。
心配された雨も朝から上がり曇り空での大会となりましたが、会場に集まつた多くの参加者の熱気が溢れ、盛り上がりのある大会となりました。

◆大会スローガン
やまがたの木で 緑の産業を再生し地域を活性化させよう
がたの美しい森林を 県民みんなの力で 支え育てよう
災の速やかな復旧・復興を図ろう

◆提案・要望事項
多くの林業団体から提案された森
林・林業・木材産業全般に亘る諸課
題から、重点課題を取り上げた内容

◆終わりに
化
本大会で採択された要望・提案事
項については、国・県等に提案・要
望してまいります。〔県森林協会〕

提案・要望事項については、沖田大会副会長からその概要について一括して説明があり、満場一致で原案どおり承認されました。
また、安部大会副会長から大会決議について提案があり、「健全で豊かな森林を守り育て、未来に引き継いでいくためには、県産木材の積極的な利用と需要の拡大を図り、資源循環型社会の構築に寄与する森林・林業・木材産業を再生し、地域の産業の振興と雇用の場を確保する」ことについて満場一致で決議されました。

続いて、高橋副知事（山形県知事代理）、古久保森林整備部長（林野庁長官代理）、鹿野衆議院議員、遠藤衆議院議員、岸参議院議員、小池農林水産常任委員長（県議会議長代理）、三瓶経済部長（天童市長代理）から祝辞があり、大会は盛会裏に終了しました。

◆大会スローガン
やまがたの木で 緑の産業を再生し地域を活性化させよう
がたの美しい森林を 県民みんなの力で 支え育てよう
災の速やかな復旧・復興を図ろう

◆提案・要望事項
多くの林業団体から提案された森
林・林業・木材産業全般に亘る諸課
題から、重点課題を取り上げた内容

◆終わりに
化
本大会で採択された要望・提案事
項については、国・県等に提案・要
望してまいります。〔県森林協会〕

保安林・林地開発許可制度について

◆はじめに

国や県では森林法に基づき、水源のかん養、災害の防備、生活環境の保全等の公益的機能の特に高い森林を「保安林」に指定し、伐採や開発行為を制限するなど、その機能が損なわれることのないように適切に管理しています。また、保安林以外の普通林の開発についても、無秩序な開発行為による森林の荒廃を防ぐため、「林地開発許可制度」により一定のルールが定められています。ここで、この二つの制度についてご紹介します。

◆保安林制度の概要

保安林の種類は目的別に十七種類あり、県内では十三種類四十一万㌶の森林が保安林に指定されています。これは県内の全森林面積の約六割に当ります。伐採や開発により保安林の公益的機能が低下すると、災害等の発生が懸念されます。例えば土砂の流出量を森林と裸地で比較した場合、森林は裸地の百五十分の一という報告があります。このように保安林は県民生活に重要な役割を果たす森林ですので、保安林に指定され

ると伐採や開発行為の制限を受けます。主な行為制限の内容は次のとおりです。

- ① 立木の伐採の方法及び限度、伐採跡地への植栽の方法（指定施業要件）が定められます。

- ② 保安林内で立木の伐採や土地の形質を変更する行為を行う場合は、知事の許可が必要です。

- ③ 保安林の他の用途への転用は公益上の理由、指定理由の消滅の時に限られます。

この制限は保安林としての機能を維持するためのものであり、①の指定施業要件の範囲内であれば伐採等が可能です。

また、保安林に指定されていると次のような助成措置が受けることができます。

- ① 固定資産税、不動産取得税、特別土地保有税は課税されません。

- ② 一定の条件を満たしている場合には、長期で低利の資金を㈱日本政策金融公庫から借りることができます。

保安林の国有・民有別面積と森林面積に占める割合

区分	保安林面積(千ha) ①	森林面積(千ha) ②	森林面積に占める割合 ①/②
山形県	民有保安林	68	313
	国有保安林	342	356
	計	410	669
全国	民有保安林	5,515	17,411
	国有保安林	7,251	7,686
	計	12,766	25,097
			51%

◆林地開発許可制度の概要

保安林以外の普通林においても、土石の採掘や林地以外への転用など一ヘクタールを超える開発行為を行う場合には知事の許可が必要です。対象となる森林は知事が樹立した地域森林計画の対象となる民有林で、保安林と国有林を除くほとんどの森林が該当します。

現在県内では、百十九件の林地開発行為が行われており、うち土石の採取が百五件と大半を占めています。許可の基準は、開発行為により森林の持つ災害の防止、水害の防止、水の確保、環境の保全の四つの働きに影響を与えないこと等です。

◆今後の課題

近年、外国資本等による森林買収が全国的に話題になるなど、水源地の森林の管理に対する関心が高まっています。加えて再生可能エネルギー利用推進の機運が高まっていることから、施設用地として保安林が候補地になるなど、森林の利用方法も多様化しています。

県としては、保安林制度と林地開発許可制度を適切に運用し、森林の公益的機能の維持増進を図るとともに、制度に沿った森林利用、開発行為が行われるよう指導を行っていきます。保安林、林地開発許可についてのご相談は最寄の総合支庁森林整備課にお問い合わせください。



荒廃森林緊急整備事業の認知率向上に向けた取組みについて

◆はじめに

平成二十四年度からやまがた緑環境税の第二期が、スタートしました。

今年度の荒廃森林緊急整備事業では、新たに森林整備を必要とする景観林整備等を加えて、県全体で一、三〇〇㌶を目標に荒廃森林の整備を進めています。現在の進捗状況は、県全体の目標一、三〇〇㌶に対して、八四二・七㌶となつており、県全体の進捗率は、六十五パーセントと順調に進んでいます。(九月末現在)

一四一号でお知らせしていますが、今年度の新たな取組みである市町村や事業体への補助事業についても計画的に進めているところです。

◆やまがた緑環境税の認知率向上の取組み

平成二十三年度に行なつた見直しの際に、やまがた緑県民会議から提出いただいた「やまがた緑環境税報告書」の中では、「税の認知率については、やまがた緑環境税を知らない県民が半数以上いることから、今後も周知を図るとともに、森づくりへの参加を促すなど、森づくりを通じて森林や税に関心を持つてもらう必要があります。」とまとめられています。



て森林や税に関心を持つてもらう必要がある」とまとめられています。

そこで、荒廃森林緊急整備事業では、新たな試みとして、森林整備事業の実施中を知らせる旗の設置や、整備した森林の中で、林道沿いなど人目に付き易い箇所への「やまがた県産材合板」で作成したPR看板の設置を進めています。

このほか、民間の情報誌の特集記事とタイアップして、その読者である若年層や女性等に対するPRも行っています。

今年度は、早急に対応できる旗や看板によるPRなどから進めておりましたが、今後さらにPR効果のある方法を工夫し、やまがた緑環境税の認知度の向上を図つてまいります。

◆おわりに

やまがた緑環境税を活用した事業の実施については、説明会等を開催しながら、皆様のご意見を取り入れ、効果的な事業の実施を目指したいと考えていますので、今後とも御理解と御協力をよろしくお願ひいたします。

〔県森林課〕



PR旗の設置状況



新たな規格のPR看板



平成24年度第2回やまがた緑県民会議の現地視察

森林環境学習の推進について

◆はじめに

森林や自然環境を適正に保全していくためには、直接的な保全活動と併せて、県民の森林等に対する関心の高まりが欠かせません。

そのため、これまで県内各地で実施してきた学校教育等における環境学習を全県下での取組みにつなげ、小学生等の森林や自然環境に対する理解の向上を図っています。

県では、森林環境学習を推進するため、小学生等が学校や様々な学習の中で「森や自然」に親しみ、学ぶ体制を構築するため、「森林環境学習における指導者の育成（人づくり）」と「森林環境学習に必要となる副教材等の作成、提供（ものづくり）」を行っています。

◆学校林環境学習指導者研修

人づくりの取組みとしては、森林研究研修センターが「学校林環境学習指導者研修」を開催しています。

この研修は、教職員や学校活動をサポートするPTA等を対象に、学校林の安全な学習環境の整備と森林環境学習を内容とする研修を各地域で行うものです。



学校林環境学習指導者研修

今年度は、白鷹町立荒砥小学校と

鶴岡市立山戸小学校で実施しています。

◆荒砥小学校（教員六名・児童六九名）

荒砥小では、一・二年生を対象に對し、現地で特徴的な広葉樹の葉を見つける「葉っぱ探し」と大きな親子の子ども（稚樹）を探す「樹のアブラやホオノキ、イタヤカエデなど一目で判る樹種のほか、オオバクロモジやタムシバなど香りで見分ける少し難しい課題も行っています。

◆山戸小学校（教員等五名・児童五名）

山戸小では、三・四年生を対象に少しレベルを上げて、葉の違いをじっくりと見比べる学習を実施しました。学校から要望のあった「山戸小学校びの森オリジナル樹木図鑑vol.1」

を試作し、それを児童が実際に使って広葉樹の見分けを行いました。児童はみな課題樹木の見分けに正解でき楽しそうな様子でした。その後の「葉っぱじやんけん」では、葉の大きさのほか、ギザギザ（鋸歯）や色の多さを競い合うことで樹種の違いを学習しました。

森林研究研修センターでは、終了後に両校の先生方にアンケートを実施し、内容の評価と児童の理解度を確認しています。

◆副教材等の提供

ものづくりの取組みとしては、森林に対する知識や理解を深めるため、小学校五年生社会科の授業等で活用できる副教材「やまがたの森林」及びガイドブック「やまがたの森林解説編」の作成・

印刷を行ない、県内各小学校等に配布していま



また、森林環境学習を実施するうえでの留意点や基礎知識、活動プログラム等をまとめた「森林環境教育の手引き」を少年自然の家等に配布し、各施設の指導員と意見交換をしました。

◆おわりに

山形県は県土の四分の三が森林であり、森林環境学習の場となる多様なフィールドに囲まれています。

県民が、森林環境学習を通して森林や自然環境に興味を持ち、理解を深めることができるよう、今後一層の取組みを進めていきたいと考えております。

県内各地に広がる 「やまがた絆の森プロジェクト」

リポート2

最後に社長さんとの景品争奪じやんけん大会をするなど、大いに盛り上がっていました。

◆イオンの森

◆はじめに
県が進める「やまがた絆の森プロジェクト」に賛同していただいた企業の皆さんのが、環境保全や社会貢献の一環として森づくりに取組む「やまがた絆の森」について、前回に引き続き活動をご紹介します。

◆おーばん琴の森

県内でスーパーマーケットを開設している株式会社おーばんが、尾花沢市と「おーばん琴の森 元気森もりこども塾」を市内の横長根山の山林で昨年度から活動をしています。市内外の家族ら約三十名が年三回の活動に参加し、植樹や自然活動などを通して、自然環境への意識を高め

ています。
これまで、サクラやブルーベリーの植樹や森林散策をしての昆虫採取など、親子で楽しく森づくりや野遊びを楽しんでいます。

取材したこの日は、今年二回目の活動として「森林で遊ぼう！」をテーマに、親子で森林を歩きながら、カブトムシなどの昆虫を探取していました。子供たちは、カブトムシなどの昆虫を見つけるたびに、歓声を上げるなど自然を満喫していました。

お昼には、夏野菜のカレーや佐渡ヶ嶽部屋直伝のちゃんこ鍋、尾花沢スイカが参加者に振る舞われ、皆さんおいしく味わっていました。

マックスバリュ東北株式会社、イオンリテール株式会社、株式会社ジョイのイオングループ三社は、昨年十二月に県と「やまがた絆の森」協定を締結しました。協定では、五年間、県内店舗で行っている有料レジ袋の収益金を活用して、飯豊町にある山形県源流の森での植樹や環境学習活動を展開する予定です。

残暑が厳しい、九月十五日（土）に源流の森での初めての活動となる「やまがた絆の森（イオンの森）」の開所式と植樹会が行われました。

開所式には、イオングループや県、町の関係者が出席し、イオン代表者や副知事のあいさつに続き、高さ五

メートルを超える立派な「イオンの森」の標柱も披露されました。参加したイオングループ社員や家族、福島・山形県内のイオンチアーズクラブ（イオン店舗周辺で活動する環境クラブ）の子供ら約二百人が、ケヤキやミズナラなど二十二種類の苗木を植えました。

族、福島・山形県内のイオンチアーズクラブ（イオン店舗周辺で活動する環境クラブ）の子供ら約二百人が、ケヤキやミズナラなど二十二種類の



広葉樹の苗木を植樹する子供たち

イオンチアーズクラブの子供たちは、昼食後、源流の森の広場で開催された「森の文化祭」に参加し、木工クラフトや十メートルのクライミングウォールの体験など、森の中で一日を満喫していました。

◆おわりに

県では、今後とも、森づくりを通して企業と地域の交流が深まり、地域の活性化に繋がるよう「やまがた絆の森」を推進してまいります。



みどりのページ

ジャガラモガラの自然観察
会とNDSOソフトスタジアム
での緑の募金活動

九月と十月は秋期緑の募金の期間となつておおり、山形県みどり推進機構では企業を訪問して緑の募金の依頼を行うなど、募金額の増加に向けて様々な取組みを行つています。その一環として、緑の少年団の団員がモンテディオ山形のホームゲーム開催に合わせて緑の募金活動を行い、NDソフトスタジアムに近いジャガラモガラでの自然観察会も併せて行いました。

◆期日 平成二十四年十月二十一日（日）
◆場所 天童市ジャガラモガラ、山形県総合運動公園
◆内容 高畠町二井宿緑の少年団の団員十五名が天童市貫津の県指定天然記念物「ジャガラモガラ」を訪れ、自然観察会を行いました。講師には天童市野草と親しむ会会長の佐藤定四郎先生をお迎えし、標高五百五十メートルほどのジャガラモガラの植生が千四百メートルの高山と同じような亜高山性の植物分布になつているこ

とや、東日本大震災以降には風穴の温度が約五度も下がつたことなど、とても興味深いお話を聞くことができ、不思議なジャガラモガラの自然観察を楽しみました。



ジャガラモガラでの活動の様子

午後からは山形県総合運動公園に移動し、モンテディオ山形のホームゲーム開始前に緑の募金活動を行いました。街頭での募金活動は初めてという団員も多くいましたが、二万二千二百八十二円の善意が寄せられました。募金活動を通してみどりの大切さをあらためて認識するとともに、社会奉仕の精神を育むことができたと思

緑の募金に御協力いただいた企業・団体のみなさま (H24. 7. 1~9. 30)

(山形県みどり推進機構取扱い分)

曙ブレーキ山形製造㈱、旭自動車㈱、㈱安部組、㈱アーレスティ山形、㈱アライドテック、㈱伊藤熱処理、㈱イヨテクニカル、エムテックスマツムラ㈱、オイルケミカルサービス㈱、尾形興業有、置賜クリーン設備㈱、オビサン㈱、㈱カナン、㈱環境管理センター、北日本特殊イザベラ建設㈱、㈲協友門間商事、光洋精機㈱、㈱幸輪、㈲後藤クリーン商会、小林防護工事㈱、㈱コヤマ、㈱斎藤板金工業所、鮎川工業㈱、㈱佐藤組、㈱三和技術コンサルタント、三和油脂㈱、㈱上東建設、伸栄伝導機工㈱、新和設計㈱、スズキハイテック㈱、㈱ダイユー、高島電機㈱、㈱高良山形営業所、㈱滝の湯ホテル、㈱丹野、㈱中幸製作所、ディスピテック㈱、㈱テトラス、テルス㈱、㈱でん六、㈲東北環境総合サービス、㈲東北紙商、東北日本ハム㈱、東北パイオニア㈱、十和建設㈱、㈱トーホー、内外緑化㈱、日本自動車販売協会連合会山形県支部、㈱畠山、東日本チャンソーアート競技大会実行委員会、ヒミヤ石油工機㈱、㈱マツダ建設、㈱丸江製作所、㈱マルコウ環境、ミクロンメタル㈱、水澤化学工業㈱、三ッ和工業㈱、明立工業㈱、山形ガス㈱、㈱山形環境荒正、山形環境保全協同組合、㈱山形銀行県庁支店、山形県市長会、山形県森林土木建設業協会、やまがたスポーツパーク㈱、㈱山形テレビ、山形電子㈱、㈱山形メタル、㈱山南自動車、米沢浜理薬品工業㈱、ルネサス山形セミコンダクタ㈱、ロータス山形㈱

（敬称略、五十音順）



みどりのページ

山形県みどり推進機構では、県内において緑化の推進や緑化木の育成に長年にわたって携っています。

また、山形新聞・山形放送と連携して最上川流域を中心に多くの桜を植栽し、桜の名所が県内各地に広がりを見せてきました。こうした桜の景色を後世に残すことが大切であると考え、東京大学の松下准教授と福島県の樹木医である鈴木先生をお招きして、「サクラを守るための研修会」を開催しました。



募金活動の様子

◆ 内容

◆ 参加者数 約百五十名

東京大学大学院農学生命科学研究科
准教授 農学博士 松下範久氏
財団法人福島県都市公園・緑化協会
みどり事業課長 鈴木俊行氏

◆ 講師
山形県高度技術研究開発センター
◆ 主催
財団法人山形県みどり推進機構、
山形新聞・山形放送、美しい山形・
最上川フォーラム

◆期日

平成二十四年十月十八日（木）

◆場所

山形県高度技術研究開発センター



東京大学 松下准教授の講演

はじめに、「サクラでんぐす病の生
活環について」と題して、東京大
学院の松下先生からでんぐす病に
ついて解説していただきました。

てんぐす病は、枝からほつき状に
細かい枝が伸び、開花期に花を咲か
せず展葉し、サクラの中でもソメイ
ヨシノの被害が特に多いのが特徴で
す。病原菌は「タフリナ・ウイズネ
リ」という子のう菌であり、胞子の
飛散により感染していく伝染病です。
てんぐす病に感染するとタフリナ菌
は樹皮や芽の内部に入り込んで越冬
し、翌春に病徵を引き起こします。

無く、見つけたら被害が広がる前に
対処すべきであることを学びました。
続いて、福島県の樹木医である鈴
木先生が、日本三大桜のひとつとし
て知られ国の天然記念物に指定され
ている「三春滝桜」の樹勢回復の取
組み状況についてお話をされました。



平成十七年の豪雪により雪折れし
た箇所の回復作業や、幹や枝に付着
した寄生植物の除去作業等により樹
勢は見事に回復しました。その後も、
消毒やボランティアによる施肥等の
管理作業が丁寧に行われており、滝
桜を見守る多くの方々のおかげで毎
年すばらしい花を咲かせていること
を教えていただきました。

〔財〕山形県みどり推進機構

サクラを守るための研修会



県内の高校生を対象に森のめぐみセミナー開催

山形県産きのこの魅力を発信！

県産きのこの魅力を

もっと知つてもらひたために

山形県のきのこの生産量は、全国でも上位となっており、特になめこは、全国第二位の生産量を誇ります。県では、森のめぐみ王国やまがた支援事業などにより、きのこの生産の振興に力を注いでいる一方で、消費の面

からもきのこの生産を支援しようと、きのこの品評会や消費拡大キャンペーングを行なっています。そしてさらに、若年層を中心にもつと県産きのこの魅力を知つてもらおうと、県内の高校生を対象とした「山形県森のめぐみセミナー」を毎年開催しています。

今後も県では、森のめぐみセミナーなどを通じ、できるだけ多くの県内外の方々に、県産きのこの魅力を知つてもらえる機会を作つていきたいと考えています。

焼いて、炒めて、さらには鍋に入れてと、きのこはどんな料理にも相性抜群です。山形の豊かな自然の中で採れた山形県産きのこを、ぜひ毎日の食卓にいかがでしようか。

〔県農山漁村計画課〕



協力しながら調理実習に取組む高校生の皆さん
(山形学院高等学校)

本セミナーは、三校合わせて約百名の生徒が受講し、県産きのこの生産状況の話や多彩なきのこの調理方法を学びました。

実習では、古田先生が考案した「きのこのカリカリ焼き」や「いろいろ



きのこステップ・ミルク風、「きのこの和風マリネ」の三品に挑戦。県産の「エリンギ」「まいたけ」などを使い、たっぷりのきのこが入った、きのこづくしの料理が出来上りました。

参加した生徒たちからは、「きのこが嫌いだつたけど、少し食べられるようになつた」、「ますますきのこが好きになつた」、「調理一つでこんなにおいしくなることを知つた」など、主催する側にとつても、うれしい感想をもらうことができました。

トニビマイタケ菌床
好評予約受付中！

庭先でも栽培
できます。



—全国食用きのこ種菌協会会員—
〒999-7757
山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2



株式会社
河村式種菌研究所

お問い合わせは：電話 0234(42)1122(代)
FAX 0234(42)1124

普及情報

森林・林業再生に向けた准フォレスター育成研修

国が示した「森林・林業再生プラン」では、市町村の森林・林業行政や森林所有者等の活動を支援するための人材としてフォレスターを育成します。昨年度から林野庁主催で将来のフォレスターを育成する『准フォレスター育成研修』が実施されています。

山形県からも普及指導員を中心として昨年度は五名、今年度は十二名が、延べ九日間に及んだ東北ブロック（盛岡市）での研修に参加しましたので、その目的と内容をご紹介します。



多くの時間を割いたグループ討議



プレゼン能力も重要な研修課題

◆ 内容

- ・森林・林業再生プランの概要
- ・フォレスターの役割、プランナーとの連携
- ・森づくりの構想
- ・木材の流通・販売
- ・間伐実行監理演習（森林作業道、路網・作業システム）
- ・林業労働安全
- ・地域の森林・林業の将来ビジョン
- ・市町村森林整備計画
- ・准フォレスターの心構え、果たすべき役割の理解



現地で間伐実行監理について
調査・検討・発表



最後に各県ごとに市町村
森林整備計画の内容を発表

① 現況から、機能・目標林型・施業を検討し、循環的木材生産の適否を判断

② 団地ごとに、路網整備や架線系作業システム導入など生産活動の可能性を評価

後半の研修では『構想力』を養う内容で、

① 団地の配置など、地域を俯瞰する視野を持って地域の森林経営のビジョンを描くための研修内容でした。

実際の業務においては、市町村、地域ごとに状況も違うことから、研修で培った知識を、それぞれの地域で役に立てる技術とする必要があります。

最後に、フォレスターは、既述のとおり様々な技術力を向上させるのを勿論ですが、地域のために、地域の人たちと一緒に、地域の山づくりを協力しながら進める、その意気込みと実行力こそが、今研修でフォレスターとして最も必要な能力であると認識した研修となりました。

〔森林研究研修センター〕

森づくりと森林経営計画（制度と事例）、コミュニケーションとプレゼンテーション

② ゾーニング、特に木材生産の対象とする人工林の見極め、優先順位の検討

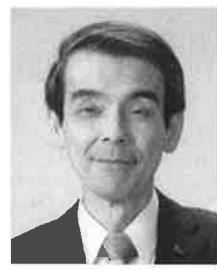
◆ 目的

- ・准フォレスターの心構え、果たすべき役割の理解
- ・准フォレスターの心構え、果たすべき役割の理解

森の人紹介

関の森林を次世代に

関生産森林組合 組合長理事 岡崎 正さん



米沢市南部に位置する関生産森林組合は、経営面積

が一二一〇ha

と県内の生産森林組合の中で断トツの規模を誇っています。当組合は、

計画的な間伐の実施や森林オーナー制度への取組みなど、地域の林業振興への貢献が評価され、平成二十四年度置賜地区緑化功労者(団体の部)として表彰されました。そんな組合の岡崎組合長を紹介します。

岡崎さんは、平成二十年から組合長を勤められています。組合が設立適正化に尽力されてきました。

岡崎家でも森林を所有し、中学生の頃からお父さんと一緒にスギの手入れを行っていました。その時、森林は手入れをすることで守られる、と学んだそうです。組合と関わるようになり、改めて森林を守るために、手入れの大切さを実感するとともに、

手入れされずに荒れていく森林を憂い、森林への関心の低下を心配するようになっていました。

岡崎さんの思いは、「先祖が守り育

てた森林を次の世代にきつちり引き継いでいきたい」、「自分達の森林は自分達の手で守っていく」、「子供達の森林への関心を高めたい」の三つです。特に子供達の森林への関心に對しては、地域の小学校と連携しながら、色々な場面で森林について話をし、体験をさせながら、何とか高めていきたい、と熱意を込めて語ってくれました。

去る九月二十九日に開催された「おきたま森の感謝祭」では、親子三代で記念植樹を行った岡崎さん。お孫さんへの思いについて尋ねると、「木は色々な使い方ができる。木が使えるのは先祖が守ってきたから。いつか孫を山に連れて行き、自分が父としたように、一緒に手入れをしたい。」との答えが返ってきました。

切捨てられた間伐材を何とか利用できないものかと考えを巡らせたり、小学校の裏山を森林学習の場にでき入れを行っていました。その時、森林は手入れをすることで守られる、と学んだそうです。組合と関わるようになり、改めて森林を守るために、手入れの大切さを実感するとともに、応援しています！岡崎さん。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

常に前向きに

佐藤 泉 三さん



平成二十三年度に新しく鶴岡市(旧朝日村)熊出地区で中心

佐藤さんは昭和二十七年生まれ、

鶴岡市(旧朝日村)熊出地区で中心的指導者として精力的に活動されています。小さい頃から休みの日に

なると森林の手入れなどをを行い、山

に親しんできたとのことで、今では

自分で植えたスギ林での間伐作業な

どに日々汗を流しているほか、地域

の集約化施設に向けた取組みも積極

的に行っています。

佐藤さんは、数年前に地域の林業

研究グループである「庄内林業研究会」に入会し、会の様々な活動に参

加してきました。子供たちとの活動

が楽しみという佐藤さんですが、水

田などの作業もあるため、秋の活動

にはなかなか参加できないのが悩み

ます。しかし、佐藤さんは会員からの信望も厚く、現在は会の副会長として活躍しています。その成果の一つが、九月に秋田県で開催された「東北北

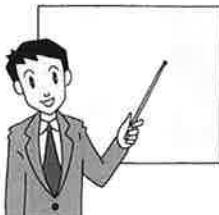
海道ブロック林業グループコンクール」です。会を代表して佐藤さんが発表したところ、活動内容が高い評価を受け、庄内林業研究会は見事最優秀賞を受賞することができました。来年には、東京で開催される全国大会での発表も控えているため、さらには意欲が高まっているようです。

そんな佐藤さんが林業士になつたのは、若い人に山に入つてもらいたい、手入れのされた森林を次代へ引き継ぎたいとの強い思いがあつたからでした。地域や林業研究会での活動を通して、解決に向け取組んでいきたいことがあります。

これからは、林床を活用した山菜栽培などにも取組んでいきたいと、

将来の夢を熱く語ってくれた佐藤さん。その積極的な取組みに、今後も期待します。

〔庄内総合支庁森林整備課〕



「ニッセイ山形の森育樹活動」 下刈りに汗を？

平成二十四年九月一日（土）ニッセイ山形の森で下刈り作業を行ないました。

場所は、県民の森地内の山辺町大字畠谷字虚空藏外四国有林二六七林班わ小班、契約面積は、三・四ヘクタール、契約期間は、平成二十三年から平成百二年までの八十年間の契約を公益法人ニッセイ緑の財団と山形森林管理署で契約を交わしています。植栽樹種は、ミズナラ・カエデ・イロハモミジ・カラマツで合計一万本を植栽しました。

「ニッセイの森」友の会が、ニッセイ緑の財団と協力して、平成四年度に植樹活動をスタートしました。二十年間で「ニッセイの森」は、四十三都道府県の百八十六箇所（約四三三ヘクタール）に広がっています。植樹や育樹（下刈り、除伐、枝払い）には、職員もボランティアとして参加し、環境意識の啓発にもつながっています。

環境貢献度評価、森林の機能は物質生産機能に止まらず、より根源的機能としての「生物多様性保全機能

「環境保全機能」「文化機能」を有しています。

林野庁は「平成十五年度より法人の森林について「環境保全機能」の一部を数値化しています。二酸化炭素固定一五七六t／年、評価額で九五三万円と評価をしています。

そのほかに、流域貯水、水質浄化、洪水防止、土砂流出防止機能などが

もなります。

県内では山辺町を含め、西川町、戸沢村、鮎川村の四箇所に「ニッセイの森」が設定されており、植栽や

下刈りが行なわれています。

来賓として、山形森林管理署の嶋野署長、山辺町などが招待されました。

下刈り作業説明として、森林管理署の業務課長が下刈り作業の安全なやり方について説明を行いました。参加者は、県内の米沢・長井・山形・寒河江・酒田地区から日本生命のセールスレディー、百二十名が参加しました。

下刈り区域が大きく、雑草の繁茂

が激しいため、地元の森林組合が予

め、下草を刈り込んであり、誤伐をしないよう竹が立ててあり、丁寧に

下刈り作業を行ないました。

八班に分け、十数名で一ブロックの下刈り作業をすることになりました

た。私の四班は、十二名が全て女性でした。ほとんどのかたが、下刈り鎌を持ったことが無いようで、右手を前に出し、左手は手前を持ち、右足は前に・・・これまでの下刈りの中で一番楽な下刈りでした。幸い怪我人もなく無事終了しました。

〔村山総合支庁森林整備課〕



全国の森の芸術家が競演！

第七回東日本チエンソーアート競技大会が盛大に開催！

九月一日から二日にかけて山形県金山町の遊学の森ぶなのき広場において、約二千九百名の来場者を迎えて、約二千九百名の来場者を迎え、第七回東日本チエンソーアート競技大会が開催されました。

大会には、北は北海道、南は兵庫県から、腕自慢のチエンソーカーバー（チエンソーで彫刻をする人）三人名が集結し、気温三十五度を越える炎天下の中、二日間に渡る壮絶なバトルを繰り広げました。

これが「森林王国・最上」の大会だ

本大会は、森のアーティスト達の知恵と技術を活かし、これまで利用されていなかつた「スギの根元部分」を活用して新たな価値と魅力を創り出し、山村地域の活性化や自然環境の保全を推進することを目標として、毎年金山町で開催されています。



メインカービング優勝作品(森のハンター)

十センチ、高さが百五十センチを超す大径木の根元部分を使用するなど、他の大会では見られない巨大な材料

を使つて競技が行われることです。カーバーは、大小のチエンソーを使い分け、ダイナミックな制作過程とチエンソーだけで彫つたとは思えない緻密で芸術性の高い作品を来場者に披露しました。

今回の大会では、県内から参加したカーバーが過去最高の七名となり、本大会での活躍が期待されました。

メインカービング競技の優勝は栗田宏武さん（千葉県）、準優勝は児玉光さん（北海道）、県内参加者では佐藤秀也さんの6位が最高でした。

東日本チエンソーアート競技大会と併せて、地元有屋地区の「森の文化祭」も併催され、下向地区民による「神輿」の奉納、柳原地区民による「柳原番楽」、入有屋地区民による「大黒舞」、宮地区民による「舞踊」などが披露されました。

体験コーナーでは、「チエンソーの使用体験」、「丸太切り」、「丸太積み」、「丸太釣り」などが無料で行われ、多くの来場者が木と触れ合うことができました。



激しかったバトルカービング！

メインカービングの他に、限られた時間でその腕を競い合う「バトルカービング競技」も行われました。



バトルカービング決勝

「森の文化祭」を併催！

予選会は二時間で二作品、決勝はなんと三十分で一作品を彫りあげるという過酷なものでした。

マは、トラ、リスなど観客の方から

その場で六人別々に出されたため、カーバーはイメージを膨らますのに四苦八苦。そこは、各地の競技会を勝ち抜いてきた猛者だけに、一度チ

エンソーカービング音を響かせて、動物の形や毛並み等の細やかな部分に至るまで表現し、その様子を見ていた観客は、徐々に出来上がりつて行く作品を驚きの表情で見つめていました。

県内参加者では、佐藤秀也さんが決勝に進出しました。

樽口なだれ防止林造成工事

「待ち望んでいた工事が完成間近」



完成間近のなだれ防止林造成工事

小国町の中心部と樽口集落を繋ぐ唯一の生活道路「町道樽口一足水中里線」をなだれから守る、なだれ防止林造成工事が完成間近となりました。施工現場はロープ無しでは登れないような急斜面です。工事用に設置したモノレールに乗るとジエットコースターの登りのような緊張感を感じます。また、さすがワラビの産地だけあってワラビが斜面を覆い尽くし、樹木はまばらにしか生えていません。なだれが起こるのも納得の現場です。

今回の工事では、この階段工の機能を回復させるために真っ先に堆積土砂を排土しました。その上で、表層・全層なだれの予防に効果がある鋼製なだれ予防柵六十七基の設置と、

小国町の中心部と樽口集落を繋ぐ唯一の生活道路「町道樽口一足水中里線」をなだれから守る、なだれ防止林造成工事が完成間近となりました。施工現場はロープ無しでは登れないような急斜面です。工事用に設置したモノレールに乗るとジエット

コースターの登りのような緊張感を感じます。また、さすがワラビの産地だけあってワラビが斜面を覆い尽くし、樹木はまばらにしか生えていません。なだれが起こるのも納得の現場です。

直射日光に加えて、岩盤からの照り返しが厳しい猛暑の中での工事でしたが、計画どおり十一月中に完成する予定です。今年からは、雪の多い冬でも安心して通行できるようになります。

開所式には、イオンリテール(株)・マックスバリュ東北(株)・(株)ジョイの各社長・社員、高橋副知事、後藤飯

豊町長をはじめ、福島市の子どもたちやイオンチアーズキッズなど、二百名を超える皆さんから参加いただきました。

当日は、地元から切り出した六メートルを超えるク

リの木の枝張りを活かした看板の除幕式が盛大に行われました。

その後、残暑厳しい中、参

やまがた絆の森(イオンの森)
の開所式が開催されました

加者全員で二十六種類の広葉樹の苗木八百本を植栽しました。

イオンの森は、今後四年間かけて、荒廃した土地を緑豊かな森林に甦らせんべく、種類の異なる広葉樹を三

がた絆の森」として、昨年十二月二十二日に協定を締結した「イオンの森」開所式(植樹会)が、九月十五日に飯豊町・源流の森で開催されました。

置賜管内では七番目となる「やまがた絆の森」として、昨年十二月二十二日に協定を締結した「イオンの森」開所式(植樹会)が、九月十五日に飯豊町・源流の森で開催されました。直射日光に加えて、岩盤からの照り返しが厳しい猛暑の中での工事でした。

開所式には、イオントリーテール(株)・マックスバリュ東北(株)・(株)ジョイの各社長・社員、高橋副知事、後藤飯豊町長をはじめ、福島市の子どもたちやイオンチアーズキッズなど、二百名を超える皆さんから参加いただきました。

当日は、地元から切り出した六メートルを超えるクリの木の枝張りを活かした看板の除幕式が盛大に行われました。

この「イオンの森」植樹会は、毎年九月に開催する源流の森「森の文化祭」と併催して行うことにしておりますので、ぜひ、皆様方のご参加をお待ちしております。



参加者全員で広葉樹の植栽



〔置賜総合支庁森林整備課〕

大道(関川)地すべり防止工事完成

（国道三四五号）交通規制解除（

◆はじめに

犬の散歩に出かけ始めた時、災害の発生を知らせる、私の携帯電話が鳴った。それは、犬の散歩もそぞろに総合支庁へ向かった平成二十三年五月一日午前七時頃、全ての始まりはそこからだった。

あの日から僕は、直射日光の突き刺さる猛暑日も、雪の降り積もる極寒日も、この地すべりとの戦いの日々の中で過ごしてきました。

そして今日、平成二十四年九月二十一日午後三時過ぎ、一台のバスと乗用車が、僕の前をすれ違つて通り過ぎてゆく。そう一年五ヶ月ほどが経ち、ようやく僕と地すべりとの戦いは終わったのである。

◆地すべり被害状況

平成二十三年四月三十日、鶴岡市（旧温海町）関川地内の大通地すべり防止区域内に位置する、国道のブロック積擁壁工にはクラックが入り、上部を走る市道の路面や水田には大きなズレや亀裂が発生しました。

この地すべりは、大きさが幅一〇五m、長さ一二八m、深さ約十mの

規模で、円弧すべりの側壁等がよく分る形で表面に出ている状況です。

このため国道は、全面通行止めとなりましたが、支庁道路計画課が、押さえ盛土、集水ボーリングの応急工事を実施し、その結果、約一ヶ月後に片側交互通行となり、この状況が続いていました。

〔全体事業費〕

・約二億二千万円

この他、この災害では、国道と市の道路災害復旧工事を実施しています。これら関係者が協調し合うことにより平成二十四年九月二十一日、国道は規制解除となりました。

◆おわりに

毎年十月になると、ここ関川地区的伝統工芸文化の祭典「しな織まつり」が行われます。この祭典より先に完成し、関川に平穏な生活を取り戻すことが出来て良かったと思います。今後も災害発生時には、迅速な対応と早期復旧を目指し、日々努力してまいります。

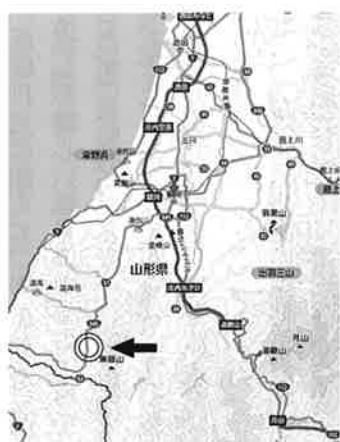
◆地すべり対策工

県単治山調査委託を実施し、災害

関連緊急地すべり防止事業を計画しました。事業採択を受け、地すべりの本格的調査を開始、調査結果に基づいた工事は、道路管理者と入念な打ち合わせを行いながら、二期に分けて実施しました。

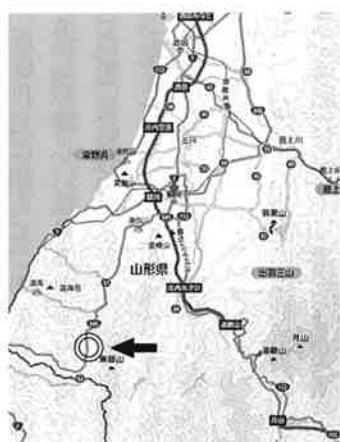
〔庄内総合支庁森林整備課〕

No.1 集水井工



No.1 集水井工

No.2 集水井工



No.2 集水井工

杭打工



アンカーエ

・集水井二基、杭打工一列三八本
〔二期工事〕
工期 二十四年四月～九月
・アンカーエ工 三段一一七本

〔二期工事〕
工期 二十四年四月～九月
・アンカーエ工 三段一一七本

工期 二十三年十一月～翌年六月

山形県の古木・名木⑫

大美輪の大杉

金山町大字有屋

藩政時代から植林が行われてきたとされる金山杉。特に、大

美輪地区にある大杉は樹齢二八〇年位、享保年間（一七一六年～一七三六年）に植林されたものと推測されています。面積〇・八七ヘクタールに百十本ほどの大杉（平均幹周三・三m、平均樹高四十九m）が文字通り林立し、一歩足を踏み入れた瞬間その迫力に圧倒されます。

最大幹周四・八mで、最大樹高五十九mは、愛知県新城市にある鳳来寺山の「傘杉」や秋田県能代市の天然杉「キミマチスギ」と共に日本でトップクラスです。

また、植栽面積当たりの材積（二二六八、 m^3/ha ）は、樹齢百年を超える人工林の蓄積量としては世界一と言われています。

〔山形県森林協会〕



（案内略図）

施設の全景



公共木造施設 76

鶴岡警察署三川駐在所

東田川郡三川町大字横山

完成年度 平成23年度
延床面積 130.98m²

構 造 木造平屋建
特 徴 鶴岡警察署横山駐在所、東郷駐在所、押切駐在所の統廃合に伴い、三川駐在所が木造で新築整備されました。構造材の大半に地元鶴岡市のスギ材が使用され、室内も木質の建材が使われるなど暖かみのある空間となっています。



みどりの財産を次世代に引継ぐために

財団法人 山形県林業公社 理事長 細野 武司

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265番

TEL 023-666-6348 FAX 023-689-9348 E-mail : yr-ringyou@atlas.plala.or.jp
ホームページ : <http://business3.plala.or.jp/y-rkousy/>



山形ゼロ災3か月運動

実施期間：平成24年10月1日～12月31日

～労働災害ゼロをめざして参加しましょう！～

詳しいお問い合わせは…

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部

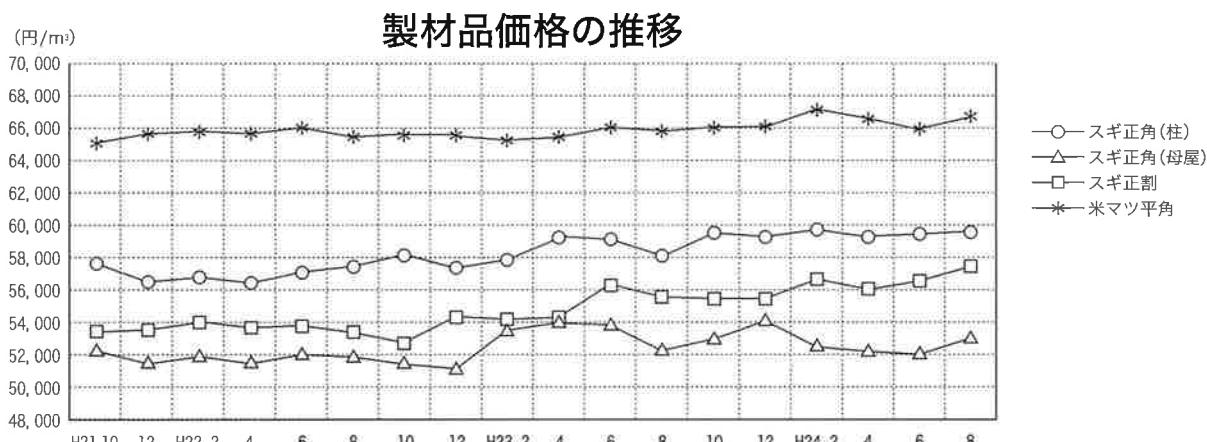
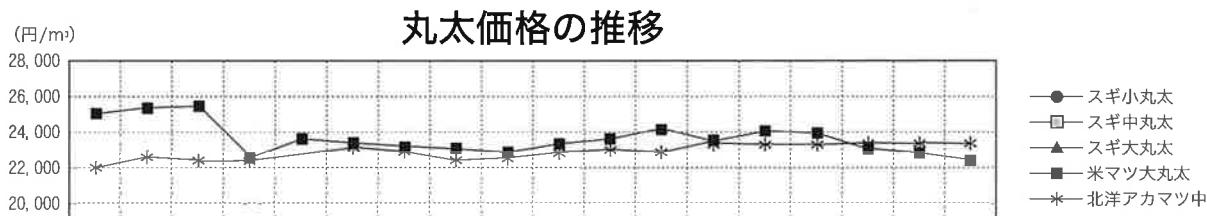
TEL: 023-666-4810

FAX: 023-666-4811

編集・発行 山形市松栄一丁目五番四号
(隔月発行)
平成二十四年十一月一日発行

監修 山形県森林協会
印刷所 渡辺印刷

定価 二八〇円



私たちは、山地に起因する災害から皆様の生命・財産を守る
“「治山施設」の重要性・必要性”を訴え続けています

私たちは、森林の整備・保全・利活用を推進する手段である
“「林道施設」の重要性・必要性”を訴え続けています

山形県森林土木建設業協会 会長 堀川隆志 ◇事務所：山形市あさひ町16-21

TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454 E-mail:info@y-sinrin.jp